

ESD ファシリテーターズ・カレッジ ERIC 主催研修

スキル「市民性/未来を学ぼう」研修記録

2014年2月22日 23日

参加者 8名

予定のプログラム

セッション1 共通基盤づくり

11:00-13:00

- 1.二日間の内容について
- 2.「未来を学ぼう」って何だろう?
[出発点「知っていること・知りたいこと」]
- 3.傾聴
- 4.二日間の心がけ[一人で→ペアで→全体で]
- 5.ふりかえり

セッション2 流れのあるプログラム体験

14:00-16:00

- 1.世界のイメージ図を書こう、好きな点・嫌いな点
- 2.差別のある状況
- 3.理想の未来は
- 4.行動計画づくり

セッション3 『未来を学ぼう』 教え方・学び方の特徴

16:00-18:00

- 1.3つの省察・ふりかえりシート
- 2.点検の視点を持つ
- 3.『未来を学ぼう』の特徴 テキスト・リーディング
4. ふりかえりとまとめ

セッション4 アクティビティ実践

9:00-12:00

セッション5 プログラムの評価

13:00-15:00

セッション6 まとめと個人的行動計画

15:00-16:00

記録

セッション1 共通基盤づくり

11:00-12:45

1. プログラムの流れについてのミニレクチャー
2. 経験主義的アプローチで構成された研修の流れ
3. 自己紹介のアクティビティのポイント
 - (ア) 自分をみつめる
 - (イ) 他者に関心を持つ
 - (ウ) ゲーム感覚で楽しむ、ほぐす
4. 傾聴
5. 学び続けるための二日間の心がけ
6. 「化学物質過敏症・電磁波過敏症」の参加者のために
7. 市民性教育について、知っていることを共有する
 - (ア) 対比表で考える「市民性教育であるもの/ないもの」
 - (イ) LBのアクティビティを分類する
8. 全体共有

セッション2 流れのあるプログラム体験

13:45-17:10

1. 世界のイメージ図[VVp.25]
 - (ア) ひとりで絵を描く
 - (イ) グループで「好きな点・嫌いな点」をまとめる
 - (ウ) 課題は何だろう?
2. 差別のある状況[VVp.170「二つの校庭」]
 - (ア) ある・ないの図[グループ作業]
 - (イ) 1のアクティビティとのつながりは何?
3. 理想の未来は・・・
 - (ア) イメージワーク[VVp.33]
 - (イ) ノートテイキング
 - (ウ) 正確に聞く傾聴
4. 行動計画

(ア) 力の分析

(イ) やれる・できる・がんばる 20

セッション3 ふりかえりとまとめ

17:15-18:00

1. ふりかえりのノートテイキング

(ア) 気づいたこと・感じたこと・学んだこと

(イ) 50の疑問

2. エイヤ! で語る「市民性教育」三原則[個人作業→全体共有]

3. 流れのあるプログラムのふりかえりシート

4. 活動形態ごとのふりかえりとまとめ

5. 三つの省察ワークシート

セッション4 プログラムづくり

9:00-11:30

1. 接続詞で論理トレーニング「昨日のふりかえり」

2. 四つの伝えたいことで起承転結ストーリーづくり

3. 四行文章でプログラム

4. アクティビティを乗せる

セッション5 ファシリテーション実践とプログラム評価

12:30-15:00

1. 評価の視点の共有

2. プログラム発表

(ア) 子どもの野外遊びを増やす100の方法

(イ) 子ども目線で取り組む新規事業

(ウ) 知ってるつもり?! CS/ES

(エ) 楽しい未来を実現しよう!

(オ) 地域で考えよう! あんたどうよ!?

(カ) 楽々楽しい会議で施策推進

(キ) わたしたちの満点PTA会議

3. ふりかえり

セッション6 ふりかえりとまとめ

15:00-16:00

1. 傾聴
2. 二日間のふりかえり
3. 修了証

2014/2/23 09:00

個人作業	ペア作業	グループ作業
<ul style="list-style-type: none">○ 振り返り○ 共有の土壌○ グループ分け○ 人への学びをつなげる、意識	<ul style="list-style-type: none">○ 描いた未来→ アラバシーへの思い→ 傾聴という新しいやり方→ ステパブルな明確化○ 流れのあるプログラム○ 起承転結の流○ 起承 → 起承が難しい○ 理想 → 行動地が難しい○ 当事者の話のリアリティ意識化○ 市民性教育の大切さ○ 理想的なプログラム	<ul style="list-style-type: none">○ 互いの気づきと共有○ その場のグループ○ 深める - 信頼関係○ テーマに分かれる○ [仕組み] まとめ○ テーマから市民性への問い○ ペアにしたい? 意識に階層○ これは「市民性」とどう関係しているか?○ → 答えは「対話」と「共有」○ 具体と一般化○ 自分たちがどうにか成る。○ 現場での実践 = 理念学習○ 反市民性教育? (考えた)
<p>全体作業</p> <ul style="list-style-type: none">○ 共有○ 比較○ 笑いを受け入れる○ たまたま体験できたけど、スランプと体験の復	<ul style="list-style-type: none">○ 視座を上げる○ 笑い○ 笑いを受け入れる	

プログラム評価視点 □ 活動形態の多様性と適切さ

- わざいにつながるか?
- 起承転結の流れのスムーズ
- 転のとき具合
- みんなが理解しているか?
- 笑い
- 笑い・リアクション
- 身近なものと意識できるか?
- 市民性教育の視点「アイ！で語る」
- プログラムのタイトルが適切か?
- おもしろかった、楽しかった、何か得られた

□ アクティビティの適切さ

- ・ 対象についての理解
- ・ わざいとの関係
- ・ 流れの中の位置

□ 傾聴・対話・ディベート

- スキルを取り入れられているか?
- 傾聴の姿勢につながるプログラムになっているか?
- ファシリテーターの話しかりわかりやすいか?
- 指示
- ミニクロー

□ 参加者のための時間である